

やまがた認知症カフェ通信 2025 11月号

令和7年 11月 14日発行 発行元／山形県認知症相談・交流拠点さくらんぼカフェ

「やまがた認知症シンポジウム 2025」を開催しました！

9月23日、山形ビッグウイングにて「やまがた認知症シンポジウム2025」が開催されました。

「新しい認知症観」や認知症に対する正しい知識を学び、認知症の人に関する理解を深めることを目的としたこのシンポジウムでは、認知症介護研究・研修東京センター長の栗田主一氏による基調講演、認知症の父親を在宅介護した経験を持つタレントのハリー杉山氏を招いたパネルディスカッション、映画「オレンジ・ランプ」の特別上映が行われました。栗田氏の講演では、誰もが認知症になり得る時代の中、全ての人々が互いに支え合う共生社会を実現する必要性をお話しいただき、パネルディスカッションでは、医師、家族介護者、支援者のそれぞれの立場でのご経験や、認知症のこれからについて意見交換が行われました。

参加者からは質問が相次ぎ、皆さんメモを取るなどしながら、熱心に話を聞かれていました。参加者アンケートでは、認知症関連のイベントに初めて参加されたという方が数多く見受けられ、「自分ごととして考えて接していきたい」「とにかく出来ることから変えていきたい」といったご意見をいただき、認知症の理解の促進の一助となれたのではと思います。

共生社会の実現に向け、認知症への理解がより一層深まるよう、引き続き関係機関等と連携を図りながら、普及啓発を推進してまいります。



(山形県高齢者支援課)

(栗田主一 氏)

さくらんぼカフェより

さくらんぼカフェから旬の話題をお届けします！

集まって語り合う！本人ミーティング

10月1日（水）、さくらんぼカフェにて「あきたオレンジ大使」神原繁行さんとパートナーの佐藤昌子さん、認知症のご本人が集まり、本人ミーティングを開催しました。神原さんは秋田県横手市にお住まいで、横手興生病院の看護部長として働いていた58歳の時に若年性アルツハイマー型認知症と診断されました。現在はリハビリテーション室へ異動されフルタイムで勤務しています。令和6年1月より「あきたオレンジ大使」として当事者の声を発信されています。パートナーの佐藤さんはリハビリテーション室長で、神原さんの思いを理解し活動を支えられています。神原さん、佐藤さんの紹介の後、参加者の自己紹介とふだん思っていることを話していただきました。

参加者のおひとりが「山が好きで山菜やきのこを採るのが楽しみだった」と話をされると、他の参加者や神原さんから同意見がでて、みんなで山に行きたいが、今は熊が出るから熊が出なくなったら行こうとなったり、その後も山にいる動物やカナチョロ（方言でカナヘビのこと）の話で盛り上がりしました。

また、仕事のこと、何をやっても不安な気持ちでいること、子どもに迷惑をかけていると思っていること、隣近所や地域との関わりなどについての話が出ると、神原さんは「私もできないことはたくさんある。できないことは『ケセ・ラ・セウ』。今を楽しく生きていきたい。」と話されました。

初めは皆さん緊張されていたようですが、ひとりの方が話し終わると次の方が話をする、というように途切れることなく話が続き、あっという間に時間が過ぎていました。「同じ病気の神原さんと話ができてよかった。できないことは諦め、やれることはやっていきたい」と、参加しての思いをご本人がまとめてくださいました。

(草苅)

認知症にやさしい地域を目指して～おれんじサポートチームの活動紹介～

1. おれんじサポートチームとは

山形市には14か所の「地域包括支援センター」が委託され、地域住民や民生児童委員をはじめとする地区関係者等から、日々様々な相談が寄せられます。その中で、特に認知症に関し包括が必要と判断した場合、おれんじサポートチームに連絡が入り、「地域包括支援センター」と協働して個別の相談対応をいたします。チームは市内2ヶ所に設置されており、北部は「えがお」、南部は「こころ」が担当しています。

2. 認知症サポーター養成講座で思うこと

地域住民や企業、学校など様々な場面で「認知症サポーター養成講座」を開催しています。参加された住民の方から、「他の人を支えるために受講したのではなくて、認知症について自分が知りたかったから」との言葉をいただき、うれしくなりました。認知症を正しく知ることが第一歩で、認知症がわが事になり始めて、自分以外の誰かを考えることができるのだと思います。まずは自分のために知っていただきたいです。

3. 認知症にやさしい地域に

認知症サポーターの中には

「地域のために活動したい」

と、ご近所の見守り、地域活

動での受付やお茶出しなど、できる範囲のちょっとしたお手伝いを行ってくださっています。また、地域で暮らす認知症の方とその家族を身近なところで支援する「チームオレンジ」の活動も始まりました。認知症カフェやサロンなどへ呼びかけ、外出が心配な方の付き添いやお声がけなど、認知症になっても孤立することなく、お互いの気持ちでつながる支え合いの輪が広がり、町内会や地区社協、認知症カフェを拠点とした4ヶ所となりました。

9月30日(火)に開催された「認知症について考える市民セミナー」において、地域の取り組みをご紹介させていただきました。

これからも、認知症を正しく知り、備え、安心して暮らし続けられる地域を皆様と目指していきます。

(山形市 おれんじサポートチームえがお 野口)

インフォメーション

ホットな話題をお届けします！

日本生命財団 シンポジウムご案内 「高齢社会を共に生きる」—私たちのまちの地域共生社会づくり—

〈場所〉TKP ガーデンシティ PREMIUM 神保町（東京）

〈プログラム内容〉

【1】基調講演「2040年を展望し、地域共生社会を考える」

講師 伊原和人氏（厚生労働省 厚生労働事務次官）

【2】実践報告

「団地を中心とした共生のまちづくりプロジェクト」

「互助会連動型くらしあんしんサポート事業の創設と広域実施」

「認知症カフェ動画プロジェクト『まちかどピクチャーズ』」

「当事者と専門職の連携による『きこえの健康支援体制』の構築事業」

【3】総合討論「私たちのまちの地域共生社会づくり」

会場参加+オンライン配信

12月13日(土)

13:00~17:00

参加費無料

日本生命財産ホームページ

<http://www.nihonseimei-zaidan.or.jp/kourei/03.html>

※事前参加(視聴)申込要

ホームページからお申し込みください。

【申込締切12月8日(月)】

発行元：山形県認知症相談・交流拠点さくらんぼカフェ 山形県認知症コールセンター(山形市 県小白川庁舎内)

電話・来所相談・カフェオープン 月曜～金曜日 昼12時～午後4時

TEL 023-687-0387 FAX 023-687-0397 E-mail kazokunokai@camel.plala.or.jp

皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。